

はじめに

本年度から完全学校週5日制のもと、小・中学校では新学習指導要領が全面実施となり、高等学校では平成15年度から学年進行で実施に移されます。この新学習指導要領のねらいは、子どもたちに基礎・基本をしっかりと身につけさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことにあります。このねらいのもと、各学校では1時間1時間の「分かる授業」の具現のため「特色ある教育課程」を編成し、「楽しい学校」づくりを進めてきたことと思います。

こうした中であって当センターでは、県内各学校の教育課題に応えるとともに、センターの研修講座の充実・改善に生かすため、研究調査を実施してきております。今年度は昨年度に引き続き「生きる力をはぐくむ学校教育の在り方 ―学力の向上・心の教育・情報化への対応―」という共通テーマを設定し、各部の専門性を生かした研究を進めて参りました。

また、本年度、全所をあげてのプロジェクト研究では、10年経験者研修の法制化など、教員の資質向上が求められる中「ライフステージに応じた研修体系」を研究して参りました。各学校におきましても、この研修体系を校内研修や教員個人の研修計画作成等に生かしていただきたいと思っております。

ここに、本年度の研究調査の結果を「研究紀要」第7号にまとめて、お届けいたします。各学校等において活用され、お役に立てていただければ幸いです。なお、特殊教育部では、小学校の特殊学級の指導に役立てていただくため、別冊「小学校特殊学級 学級づくりのポイント」を作成いたしました。合わせてご活用ください。

最後になりましたが、今年度の研究調査にご協力をいただきました関係機関並びに各学校の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成15年（2003年） 3月

長野県総合教育センター所長 長沼 善朗